タイトル	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
絵本　風の子　しりとり ～〇から、始まることば～	中	国語・数学G （国語・数学・自立活動）	

＜ねらい＞・いろいろな動物の名前を覚えることができる。
・イラストと実写（写真）が同じものであるとつなげることができる。
・〇から始まる言葉を考えたり、選んだりすることができる。

１．生徒の実態

中学部の国語・数学の授業では、発達段階別のグループ分けを行っており、本グループは新版Ｋ式発達検査（２００１）において、１：９～３：０の発達段階の生徒５名で構成されている。身の回りの言葉や簡単な指示を理解して活動に取り組むことができる。発語は少ない生徒や物の名前を単語で答えられる生徒などがいる。

自閉性障害の生徒が３名おり、２つの数を合わせる課題など、きまったやり方を覚えると答えを導き出せるが、概念的な理解は難しい。はじまりの歌などで、手遊びをすると、教師をよく見て、その模倣をすることができる。

２．題材設定の理由～実際行った様子

日々の生活の中で、よく見聞きする言葉においては理解しているが、初めてのことについては、なかなか理解が深まらない様子が見られた。また、絵本の読み聞かせをする中で、動物の名前や野菜、果物の名前など知らないものが多く見受けられた。

そこで、よく使われるような言葉を中心に語彙を広げたいと考え、主に動物、野菜、果物の名前が出てくるような絵本の読み聞かせを行うことにした。いきなり言葉を提示して覚えることは難しいので、「鹿は、どれ？」（文字も記入）というように、イラストを提示して選ぶことでゲーム感覚に行い、新たに覚えられるようにした。Ｉ-ｐａｄを使って連続的に何度も行えるようにした。

また、言葉や文字を意識できるように、最初の文字（鹿なら「し」）を強調して、「し」から始まる言葉などを考えられるようにした。最初は、問われていることが難しかったようであるが、単語を一文字ずつ区切って読んだり、最初の文字を強調したりすることで、意識できる生徒が増えてきて、「し　から始まるものは？」の質問に、『鹿』を選べる生徒が増えてきて、最初の文字を意識できるようになってきた。文字にも興味をもっている生徒もいたので、音と文字のつながりを感じる機会ともなった。

＜良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）＞

自閉性障害の生徒が多く、順番などを覚えていくことが今までは多かったが、絵本１冊分の単語のやりとりを行うことで、その都度考えていこうとする姿勢が見られるようになってきた。しかし、まだまだ言葉の理解、語彙の少なさもある生徒も多く、本題に至るまで時間がかかってしまった。もう少し、知っている言葉から始める方がよかったと思う。